

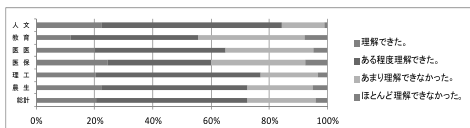
その他

平成 24 年前期
21 世紀教育に関する学生アンケート

○1 年生

設問 2：入学時のガイダンスの説明で、21 世紀教育の履修のしかたが理解できたか？
(回答数 518)

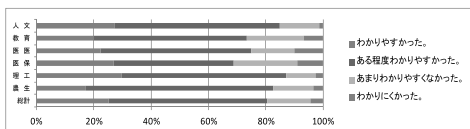
- ・理解できた (20.5%)
- ・ある程度理解できた (52.1%)
- ・あまり理解できなかった (23.2%)
- ・ほとんど理解できなかった (23.2%)



「理解できた」「ある程度理解できた」を合わせた割合は回答者の 7 割を超えており、昨年度 (76%) とほぼ同等となりました。昨年度と同様に理解度の学部間の差が大きく、人文学部・理工学部で理解度が高く、教育学部が低くなっています。

設問 3：「履修マニュアル」の解説はわかりやすかったか？ (回答数 516)

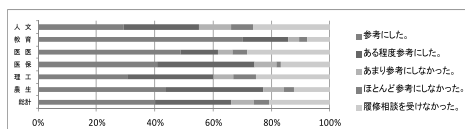
- ・わかりやすかった (25.2%)
- ・ある程度わかりやすかった (55.4%)
- ・あまりわかりやすくなかった (15.1%)
- ・わかりにくかった (4.3%)



「わかりやすかった」「ある程度わかりやすかった」を合わせた割合は全体の 80.6%と、昨年度 (80.8%) と同等の結果となりました。一方で教育学部、医学部保健学科では「あまりわかりやすくなかった」とする回答が 20%を超えるなど、「履修マニュアル」の説明に工夫が必要と思われます。

設問 4：履修相談で受けた指導を履修にあたって参考にしたか？ (回答数 517)

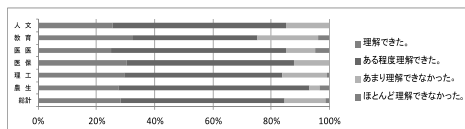
- ・参考にした (40.2%)
- ・ある程度参考にした (26.0%)
- ・あまり参考にしなかった (7.7%)
- ・ほとんど参考にしなかった (5.4%)
- ・履修相談を受けなかった (20.7%)



回答者の約 79%が履修相談を利用し、そのうち 8 割以上の学生が相談時に受けた指導を参考に取り、履修相談が重要な役割を果たしている事がわかります。また学部によって履修相談の利用率に差があり、教育学部で 92.2%と高く、医学部医学科で 71.8%と最も低くなっています。今後とも履修相談を充実させることが必要と思われます。

設問 5：入学時のガイダンスや履修相談等を通じて、21 世紀教育の目標が理解できたか？ (回答数 519)

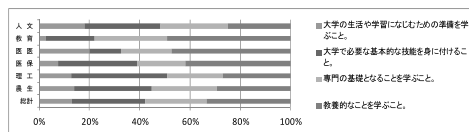
- ・理解できた (28.3%)
- ・ある程度理解できた (56.3%)
- ・あまり理解できなかった (13.9%)
- ・ほとんど理解できなかった (1.5%)



「ある程度」程度以上理解できたとする回答は、全体で約 84%と、昨年同様の高い理解度であることがわかります。また「ほとんど理解できなかった」とする回答が昨年度 (2.1%) より低くなっており、入学当初に 21 世紀教育の目標の理解の程度はより高まっているものと判断されます。

設問6：21世紀教育に対して一番強く期待することは何か？（回答数520）

- ・大学の生活や学習になじむための準備を学ぶこと（12.9%）
- ・大学に必要な基本的な技能を身に付けること（29.2%）
- ・専門の基礎となることを学ぶこと（24.4%）
- ・教養的なことを学ぶこと（33.5%）

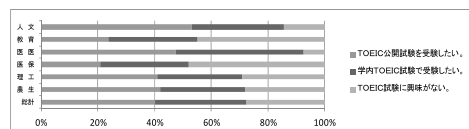


選択肢はそれぞれ「導入科目」「技能系科目」「基礎教育科目」「テーマ科目」の目標に対応しております。期待する内容は学部間で異なっており、理工学部・農学生命科学部は、「大学に必要な基本的な技能を身に付けること」の割合が高く、教育学部・医学部医学科・医学部保健学科では、「教養的なことを学ぶこと」の割合が高くなっています。

<英語コミュニケーション実習について>

設問7：TOEIC試験に興味がありますか？（回答数517）

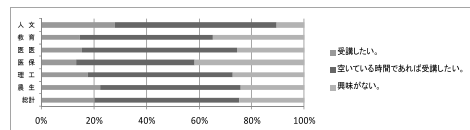
- ・TOEIC公開試験を受験したい（40.2%）
- ・学内TOEIC試験を受験したい（32.3%）
- ・TOEIC試験に興味がない（27.5%）



全体で約72%（375名）もの学生がTOEIC試験の受験を希望しています。前年度約70%（462名）と比較するとTOEICの受験熱がさらに高まっていることがわかります。人文学部と医学部医学科では何らかの形での受験を希望する学生が80%を超えており、TOEIC試験に対して特に積極的な姿勢が窺えます。理工学部や農学生命科学部でも軒並み60%を超えており、TOEIC試験に積極的な姿勢が見られます。これに対し、教育学部や医学部保健学科では消極的な傾向が見られます。

設問8：TOEIC向けの授業を受講したいですか？（回答数517）

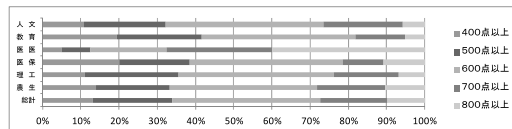
- ・受講したい（20.3%）
- ・空いている時間であれば受講したい（55.1%）
- ・興味がない（24.6%）



TOEIC向けの授業に対しても基本的に問7のTOEICの試験の場合と同じ傾向で、約75%の学生が受講を望んでいます。ただし、TOEIC向けの授業を受講した学生の大半が「空いている時間があれば」と回答しているため、時間割上の工夫があれば受講希望者を増加することができます。教育学部と医学部保健学科では若干消極的な傾向が見られます。

設問9：TOEICを受験する場合は、何点ぐらいに目標を設定したいですか？（回答数515）

- ・400点以上（13.2%）
- ・500点以上（20.6%）
- ・600点以上（38.8%）
- ・700点以上（17.7%）
- ・800点以上（9.7%）



医学部医学科の700点以上以外は、600点以上を第一目標としており、ついで500点以上と、全体的に高い点数を志向しているようです。前年度と同様に、400点以上を目標とする割合が減少傾向にあります。

設問10：履修を希望したが、時間割の関係で受講できなかった科目があれば記入してください。

人文学部と理工学部によく、医学部医学科で少ないようです。受講できなかった科目の上位は、「心理学の基礎(20名)」、「哲学の基礎(17名)」

「言語学の基礎(13名)」です。

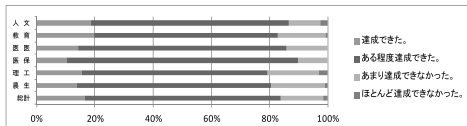
	人文学部	教育学部	医学部 医学科	医学部 保健学科	理工学部	農学生命 科学部	計
人数	52	20	1	7	33	18	131
科目数	27	11	1	8	19	11	77

○2年生

21世紀教育の「基礎教育科目」「テーマ科目」「技能系科目」について、その程度を問いました。学部学科により回答数にばらつきが見られるため一概には比較できませんが、以下のような結果になりました。

設問2：21世紀教育の「基礎教育科目」の達成目標は「学問のすそ野を広げ、学ぶための教養を培う」ことだった。あなたの学習の結果からみて達成感はどうだったか？ (回答数 517)

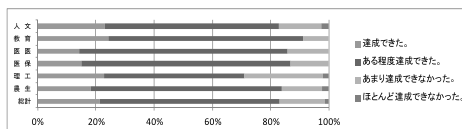
- ・達成できた (16.5%)
- ・ある程度達成できた (67.3%)
- ・あまり達成できなかった (14.5%)
- ・ほとんど達成できなかった (1.7%)



「達成・ある程度達成」できたと回答した学生は全体の約84%であり、概ね目標を達成していると思われます。医学部医学科については「達成できなかった」と感じる割合が14.3%と、昨年度の33%よりも大幅に減少しており、昨年度に比べ、学部学科間の相違が縮小しています。

設問3：21世紀教育の「テーマ科目」の達成目標は「幅広く深い教養と総合的な判断力を養う」ことだった。これに対して、あなたの学習の結果からみて達成感はどうだったか？ (回答数 518)

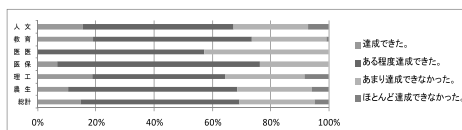
- ・達成できた (21.4%)
- ・ある程度達成できた (61.6%)
- ・あまり達成できなかった (15.5%)
- ・ほとんど達成できなかった (1.5%)



「達成、ある程度達成」できたと回答した学生は全体の83%であり、多くは達成感の感じることができる興味関心のある科目を履修していると思われます。しかしながら理工学部で「あまり達成できなかった」と感じる学生が26.8%と高く、履修した内容と興味関心が異なる場合も多かったようです。

設問4：21世紀教育の「技能系科目」の達成目標は「国際化や自己管理、自己表現に対する能力の育成」だった。あなたの学習の結果からみて達成感はどうだったか？

- ・達成できた (14.8%)
- ・ある程度達成できた (54.5%)
- ・あまり達成できなかった (25.9%)
- ・ほとんど達成できなかった (4.8%)



「達成、ある程度達成」と回答した学生は、全体で69%でしたが、最も割合が高かったのは、医学部保健学科の76.3%、最も低かったのは医学部医学科の57.1%と学部学科間でばらつきが見られました。

設問5：履修を希望したが、時間割の関係で受講できなかった科目があれば記入してください。

人文学部、農学生命科学部に多く、医学部医学科はいませんでした。受講できなかった科目の上位は、いずれもテーマ科目の「メンタルヘルス(6名)」、「最新医学の現状(5名)」、「東日本大震災復興論(4名)」、「太宰治研究(4名)」です。

	人文学部	教育学部	医学部 医学科	医学部 保健学科	理工学部	農学生命 科学部	計
人数	21	12	0	12	8	15	68
科目数	14	10	0	12	10	14	60

設問6：21世紀教育科目の成績評価について感じたことがあれば自由に記してください。(回答数40)

意見の多くは「成績評価の基準がよくわからない」「担当教員によって評価基準が違う」といった評価基準に関する内容です。その他、成績評価において出席点を重視してほしいなどの意見もありました。

設問7：21世紀教育の全体を通じて、特に感じたこと、考えたこと、提案したいことがあれば、自由に記してください。(回答数50)

多岐にわたる意見が寄せられましたが、特に多かったのが「履修制限に関すること」、「成績評価

に関すること」、「時間割に関すること」です。「履修制限に関すること」では、抽選になる科目が多いことに対する不満、「成績評価に関すること」では、成績評価の基準がよくわからない、担当教員によって評価基準が違うといった意見が多くありました。「時間割に関すること」では、テーマ科目が火曜日と木曜日に集中していることについて、他の曜日や他の時限にも多く開講してほしいなどの意見が寄せられました。

また、21世紀教育科目の一学期に履修登録できる単位の上限について緩和を求める意見や、履修のルールをもっとシンプルで分かりやすくしてほしいといった要望が寄せられました。

講義室の設備に対しては、特にマイク設備の充実を求める意見が多く寄せられました。

平成24年後期

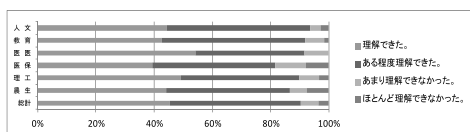
21世紀教育に関する学生アンケート(1年生のみ)

○1年生

設問2：後期のガイダンスの説明で、21世紀教育の修のしかたが理解できたか？

(回答数433)

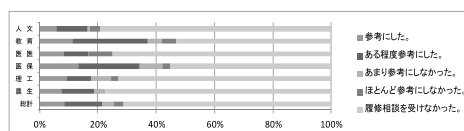
- 理解できた(45.5%)
- ある程度理解できた(44.8%)
- あまり理解できなかった(6.0%)
- ほとんど理解できなかった(3.7%)



全体の90%が「理解できた」「ある程度理解できた」と回答しており、「あまり」「ほとんど」理解できなかったと回答した学生が昨年度(11%)より減少する(9.7%)など、ガイダンスの説明による理解がより深まっていることがわかります。

設問3：履修相談で受けた指導を履修にあたって参考にしたか？(回答数435)

- 参考にした(13.1%)
- あまり参考にしなかった(3.9%)
- ほとんど参考にしなかった(3.2%)
- 履修相談を受けなかった(71.3%)

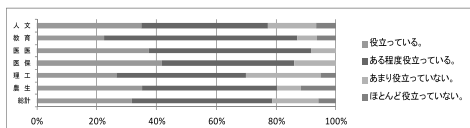


後期の履修相談を受けた学生は全体の20.2%と前期(79%)に比べ半分以下でしたが、相談を受けた学生の75%が「ある程度以上」参考にしたと回答しており、後期の相談者数は少ないものの、履修科目決定に不安を持つ学生への相談窓口として有効であることがわかります。利用率では教育学部と医学部保健学科が高く、農学生命科学部が低いという結果が見られました。

設問4：「基礎ゼミナール」は、大学の学習や生活になじむために役立ったか？

(回答数426)

- ・役立っている (31.7%)
- ・ある程度役立っている (46.9%)
- ・あまり役立っていない (15.5%)
- ・ほとんど役立っていない (5.9%)

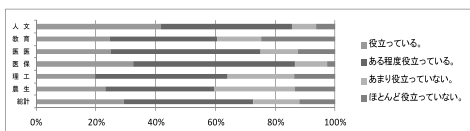


「ある程度」以上役立っていると回答した学生の割合は、医学部医学科で91.7%と最も高い一方、理工学部では最も低い69.8%とばらつきがみられましたが、全体の合計では78.6%の学生が「ある程度」以上役立っていると回答しており、21世紀教育の中で基礎ゼミナールの重要性が引き続きうかがえます。

設問5：「基礎ゼミナール」は、レポートなどの文書作成に役立っているか？

(回答数 430)

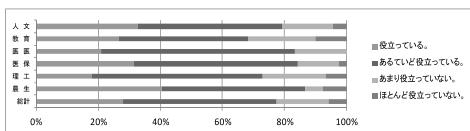
- ・役立っている (29.3%)
- ・ある程度役立っている (43.3%)
- ・あまり役立っていない (15.6%)
- ・ほとんど役立っていない (11.9%)



設問6：「基礎ゼミナール」は、口頭発表などに役立っているか？

(回答数 427)

- ・役立っている (27.9%)
- ・ある程度役立っている (49.6%)
- ・あまり役立っていない (16.6%)
- ・ほとんど役立っていない (5.9%)

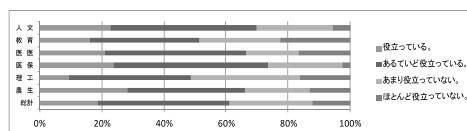


設問7：「基礎ゼミナール」は、資料を探す際に役立っているか？

(回答数 434)

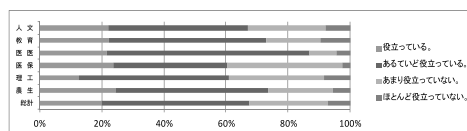
- ・役立っている (18.9%)

- ・ある程度役立っている (42.4%)
- ・あまり役立っていない (26.5%)
- ・ほとんど役立っていない (12.2%)



設問8：「基礎ゼミナール」は、物事を批判的に検討し、新しい課題を探すことに役立っているか？

- ・役立っている (20.0%)
- ・ある程度役立っている (47.6%)
- ・あまり役立っていない (25.1%)
- ・ほとんど役立っていない (7.4%)



基礎ゼミナールは、大学における自立的・主体的学習への順応を図るため、資料の検索や収集方法を理解し、正しい文章表現と説得力のあるプレゼンテーションの方法を学び、議論を深める討論の仕方を習得することを目的とした導入科目として位置付けられています。設問5・設問6は、文章作成、口頭発表に関する設問ですが、これに対して「ある程度」以上役立っていると回答した割合は昨年同様76~77%と高く、基礎ゼミナールが、大学で学ぶための基礎的な手法を学ぶ導入科目としての役割を果たしていると判断できます。しかしながら設問7の資料検索において、約38.7%の学生が「役に立っていない」と回答しており、特に理工学部においては、51.4%と高い数字が見られ学部学科間の差も大きく、各学部のそれぞれの事情や必要性に応じた展開方法を引き続き検討する必要があると思われます。

設問9：履修を希望したが、時間割の関係で受講できなかった科目があれば記入してください。

人文学部と理工学部によく、医学部医学科で少ないようです。受講できなかった科目の上位は、いずれもテーマ科目の「芸術の世界(9名)」、「最新医学の現状(8名)」、「社会と私(8名)」です。

	人文学部	教育学部	医学部 医学科	医学部 保健学科	理工学部	農学生命 科学部	計
人数	39	12	2	7	23	12	95
科目数	39	13	2	7	24	12	97

設問 10 : 21 世紀教育科目の成績評価について感じたことがあれば自由に記してください。(回答数 52)

「妥当だと思う」「適切だと思う」という記述が 3 件ありましたが、その他は批判や要望のようです。その多くは「成績評価の基準がよくわからない」「担当教員によって評価基準が違う」といった評価基準に関する内容です。また、「点数を開示してほしい」といった意見もありました。

設問 11 : 21 世紀教育の全体を通じて、特に感じたこと、考えたこと、提案したいことがあれば、自由に記してください。

(回答数 57)

多岐にわたる意見が寄せられましたが、特に多かったのが「履修制限に関すること」、「成績評価に関すること」、「時間割に関すること」です。「履修制限に関すること」では、抽選になる科目が多いことに対する不満、履修希望者が多い科目については複数コマ開講してほしいといった要望が多くありました。「成績評価に関すること」では、前述の問 11 と同様に、成績評価の基準がよくわからない、担当教員によって評価基準が違うといった意見が多くありました。「時間割に関すること」では、受講したい科目が同一曜日・時間帯に重なっている、特定の曜日に授業が集中しているといった意見が多く寄せられました。